

## 医療問題について

山武市長 椎名 千収

山武市議会において「医療問題に関する特別委員会」が設置され、市民の皆様とともに真剣にお取り組みいただくことは、大変に心強く感謝にたえません。

新聞報道をお読みいただくなか、理解し難いことが多いと思います。市長としての判断の経緯を説明いたします。

第一の問題は、場所にあります。救急医療、安定経営、医師確保の三つの問題を解決するために、「山武郡内の公立病院を整理統合して、郡の中央に一つの公立病院を作る」考えが「山武医療センター計画」です。けれども、東金市の主張する丘山台の予定地は、9人の首長による決定事項であるとして、私ひとりの主張では変えることが困難です。

第二の問題は、計画時期（平成12年ごろ）に比べて、

市や町の財政状況が悪化していることです。「今は『計画有りき』で進める時ではなく、実現可能な計画に見直すべき」と訴えてきました。が、「救急は待ったなしである」との強硬論があったので、主張を通すことができません。

今年に入ってから、非公式ながら長生郡の考え方もお聞きできたことから、1月12日の会議に、「予定地に長生郡にも呼びかけて、救急を中心としたセンターを建設する」提案をしました。

この案は、市町長間で合意されましたが、行政組合は実行しませんでした。そして24日、千葉県健康福祉部の幹部4人が来訪され、中長期的なイメージながら「400床の山武・長生医療センター」が県の考えであるとの案が提示されました。郡内市町の決定を覆す形での千葉県の方針が示されたことから、山武市としても県の考え方に同意せざるを得ないと判断したところ。このことが1月29

日の会議を経て、新聞報道に至った経緯です。

2月13日には、県会議員、千葉県健康福祉部長ほか同席にて、改めて市町長による協議がなされました。

この会議でも県の強いお考えに変更はなく、当面は山武郡中心にセンター病院を建設。将来は「山武・長生医療圏の中心的病院」となる。また、成東病院は、山武地域を受け持つ一般病床150床の病院として運営されるとの位置づけです。

この会議においても私は、基本的な考え方や疑問点について指摘いたしました。財政的には県が責任を持つて援助するとの方向がはっきりと示されましたので、市民の皆様には「県幹部のご発言を信じて、山武市としての財政的な懸念はない」とお伝えいたします。

場所の判断は、山武地域の財政力や医師不足の状況、そして根本的には国の医療政策に関わる問題です。

この地域に365日24時間の救急を確保する公立病院を考える場合、医療圏をひと回り大きな山武・長生の枠組みで考えることは間違いではありません。

現時点での最優先課題は、国保成東病院の経営です。これから何年間か先の医療体制が整うまで、山武地域の医療全般を中心的に受け持ち、新しいセンターに引き継がれる医師や医療スタッフを確保して行く成東病院を、地域の市町が協力して運営していくことが山武地域の市民・町民の命を守る一番大切な仕事であると思います。

現状において採り得る最良の選択は何なのか、実現までまだまだ不確定な要素を含んだまま進行している「医療センター問題」に、正しい認識を持たれて、最後までしっかりと見届けてくださいますようお願いいたします。

(2月15日)

## 編集後記

編集委員の皆さんのご好意により、この場を与えていただきましたことに感謝申し上げます。温暖化により、地球環境が脅かされ、子孫へのツケを回さない取り組みが急務となつていきます。今私たちにできることを、一人ひとりが真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか。

また、4月22日には、初めての市議会議員選挙が行われます。大きな難問題が山積する、新市の代表を決める大事な選挙です。市民生活から遊離した議会であつては絶対にならない、またそうならないように願っています。(山崎喜世子)

